

上野樹里守護靈インタビュー（2017年2月22日） 担当:石田昭 2017年3月26日

- 1 総裁先生の言葉: 宗教団体の映画としては、彼女が主演の「陽だまりの彼女」のような（ネコが人間に生まれ変わって恩返しするポエム的）映画を作れたら合格だと思う。「君のまなざし」の原案はその線で自分が出したが、議論する中で少しワイルド刺激的に変わった。
- 2 靈言: 清水富美加（レプロ）問題では、芸能界で当会にシンパシーを持つ人多い。自分（アミューズ）は応援のために（靈言収録に）自発的に出てきた。アミューズにはシンパが多い。
- 3 芸能界で生き残るには、「靈言」や先生の著作は必須。「宝の山」である。第二のルネッサンスが日本で起きている、しかし内部の人も含めて多くの人が、それを知らないでいる。
- 4 日本の開闢、日本神道ができる時に神々の活動があった。現在はそれを超える「世界的」な運動が起きている大事な時代。それを知らないで日本に生きるのはもったいないこと。
- 5 しかし、現在の当会は村役場の仕事のように見える。もっと自信を持って太っ腹であれ。
- 6 幹部の「認識」が低いのじゃないか「使命感」が弱い。聖徳太子：「政党が勝てない理由は宗教本体に原因がある。幹部がセクショナリズムで仕事をしている」、韓信：「信者数が圧倒的でないのなら、浮動票を取れる人、目玉政策、新奇な発明が必要」、先生：「切り身じゃないマグロ料理を作れ」
- 7 地獄的映画が多いので、大掃除が必要だ。清水富美加問題も、天界からのブレーキだろう。業界は、宗教組織が仕事を邪魔しているという認識で、価値基準がなく、倫理なし。
- 8 芸術大学で教える「芸術論」はもう無駄である。本当のことを教えているのは当会のみ。
- 9 幸福の科学は先生の名前と本の数に頼り、組織自体に力が出ていない。すでに宗教の枠を超えてはいるが、中にいる人がわかっていない。「天界の声」頼りで「組織的発信力」がない。
- 10 政党への進言: 現役の政治家が来ても使えるだけの「器」がないと難しい。大江康弘氏（生長の家系）が入党したとき、「靈言」が降ろせなくなった。月読命の言葉に「君達は結界が欲しいのだろう？」「神域を守るパワーがない。弟子が企業の中で働いている気持ちがそうさせている」とある。つまり、「汚れた蓮池」を守れる指導者を輩出しないと政治もダメ、Dr中松のような変人を使えない。
- 11 先生は天界と交流する仕事があるから、それ以外のこの世的な部分の仕事は弟子がもう少しちゃんと進めなければいけない。月読・マイトレーヤが「蓮池」を守る時代を待つか？
- 12 政党もプロダクションも同じ。外で活躍する人を受け入れられる「器」、人材が必要。
- 13 「ベテラン俳優たち」を使えるキャパがない。天照の靈言：「映画制作、政党活動などもあるが「手段」を「目的」と誤解するな。使命を果たすことを意識せよ」、「蓮池」の目的を知り、池を広くせよということか？
- 14 今は幸福の科学には「マイナス」イメージのほうが強い。「プラス」に変えないとダメ。
- 15 弟子の考え方方が小さいのが問題。出家の問題も「小さな戦い」にすると、教団全体のマイナスイメージになる。これは弟子の責任で、考え方方が小さい。自分が使い易い“自分よりもっと小さな人”を使っている。「自分より能力のある人」を使えるような弟子が必要。
- 16 過去世は言えないが、当会の女性幹部とは同じくらいの靈界にいる。でも当会は「役所の仕事」をするような人ばかり集めるので、自分なんか入れてもらえない。組織力不足。
- 17 幸福の科学の流れは初動期から見守っていたので全部知っている。生まれる前からのこと？
- 18 創価学会に比べたら、評判は悪くない。コマーシャルにだって絶対に出られるはず。
- 19 まだ自分の最高傑作には出会っていない。シャーリーマクレーンのような仕事、日本で言えば丹波哲郎のような仕事をしたい。でも、出家したら村役場の戸籍係のようになる。
- 20 幸福の科学の教えには文学や芸術のテーマが山のようにある。副題「宝の山」は自分が出した。「受け止める力」「包容力」を増して欲しい。先生：外で力を発揮するのも良い。